

## スプレーギクの季節別の水消費特性

[研究のねらい]

近年、スプレーギクにおいて養液土耕栽培（栽培期間を通して液肥のみで施肥を行うため土耕栽培）が普及しつつあります。この栽培法で適正な養水分管理を行うには、スプレーギクの水消費量を把握する必要があります。そこで、季節別の水消費量を求めるとともにその水消費特性を明らかにします。

[研究の成果]

- ①定植から収穫までの累積水消費量は季節によって大きく変動し、最も累積水消費量の多かった作型と少なかった作型では約4倍の差が認められます（図1）。
- ②水消費量は、いずれの季節も生育ステージが進むにつれて増加する傾向にあるとともに日射量および葉面積と相関が高く、年間を通して1日当たりの水消費量（ $y$ : ml/シュート/日）を、 $y=14.44 \times \text{日射量 (MJ/m}^2/\text{日)} + 0.13 \times \text{葉面積 (cm}^2/\text{シュート)} - 114.55$  の重回帰式（ $R^2=0.77$ ）で推定できます（図2）。
- ③栽培期間中の葉面積は、発らい2週間後を境に概ね2つの直線であらわせることから、この直線と日射量の平年値とを組み合わせることで作型ごとの水消費量を推定できると考えられます（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

- ①本成果は、スプレーギクの養液土耕栽培における養水分管理マニュアル作成のための基礎データとして役立つとともに慣行土耕栽培において適正なかん水を行う際の目安になります。
- ②本成果は、ベンチ栽培におけるデータに基づきます。

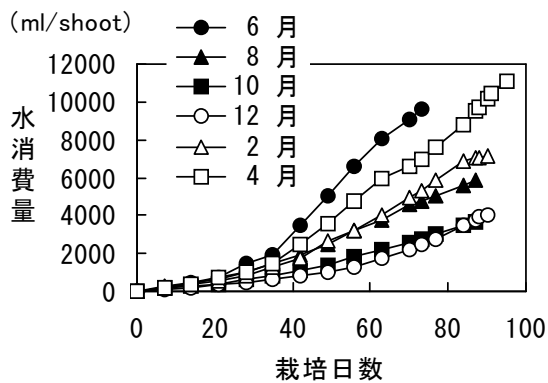


図1 定植期とスプレーギクの累積水消費量  
供試品種:「セイハニー」

(ただし、6月定植は「バレリーナ」)

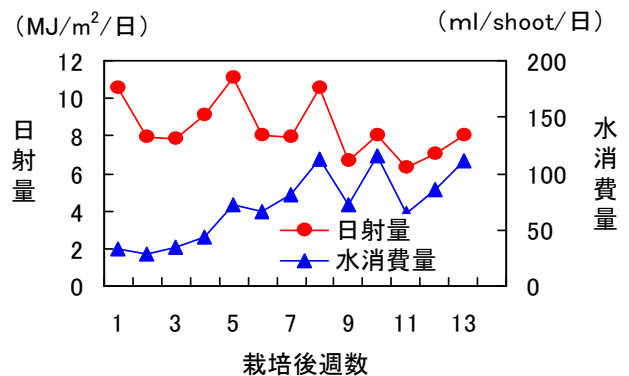


図2 生育ステージ別の水消費量と日射量の関係(8月定植)



写

実施年度：平成12～14年度  
担当者：島 浩二